

～ キミのそばにはいつも本。それは心のベストフレンド ～

ヤング ジェネレーション

香川県立図書館「Young Generation コーナー」
第1回 企画展示



ホラー? それともミステリー?
“涼”を誘う本たち



梅雨のジメジメした時期が去ったと思えば、次は照りつける太陽との闘い。「うっ～ あつい!」を連発し、冷房のきいた部屋から一步も出られず、毎日をダラダラと過ごしているなんてことはないかな。

この夏、10代のみなさんのために冷房知らずの“涼”を誘う本を集めてみました。ホラー、幽霊、心霊、怪談、妖怪などでゾクゾク感を味わってみたい? こわいのが苦手なキミにはミステリーや冷たい食べ物の本もご用意しています。

「長すぎるのはちょっと…」と敬遠しがちな人! 読み出すとこれが意外とおもしろい。背後に誰かがいるような気配を感じたらもう完全に引き込まれているのかも。刺激が強いため、読みすぎにはご注意ください。

■展示期間■ 平成21年7月28日(火)～9月13日(日)

《場所》 香川県立図書館「Young Generation コーナー」 展示スペース

《開館日》

火曜日～金曜日 9:00～19:00

土曜日/日曜日 9:00～17:00

《休館日》

月曜日

香川県立図書館

2009. 7. 25 発行

〒761-0393

香川県高松市林町2217-19

(香川インテリジェントパーク内)

電話 087(868)0567

<http://www.library.pref.kagawa.jp/>





クリス・
プリーストーリー / 著
三辺律子 / 訳
デイヴィッド・
ロバーツ / 画
〔理論社〕

『モンタギューおじさんの怖い話』

エドガー少年は、学校のない日には、森に住むモンタギューおじさんのところによく出かける。おじさんの家で、たまーに見かける村の子供たち。そこで聞かされる数々の怖い話。エドガーは、おじさんの語る怖い話に少しずつ恐怖がめばえ…。ついに明かされる彼の家の真実、おじさん自身の秘密…。

最後まで読めるかどうか、肝だめしのつもりでどーぞ。



京極夏彦 / 著
〔メディアファ
クトリー〕

『旧（ふるい）怪談』

江戸時代の怪しい話しや奇妙な話を集めてつくられている本。

「あの世のものに呪われる怖さ」「気持ち悪い怖さ」「不思議な怖さ」「怪しい怖さ」など、さまざまな「怖さ」が、まるで体験談のようにつづられています。

怖いものには目がない人にはオススメの一冊。



ジャン・
マーク / 著
三辺律子 / 訳
〔パロル舎〕

『バスにのらないひとたち』

他人には見えないものが見えるジェニー。そんな彼女は、公園の中を通るのがイヤで、いつもバス停まで歩いている。でも、バス停の横に新しい待合室ができたところから公園で遊ぶようになり…。今度は待合室で不可解なことが！その原因はいったい？

50年代のイギリスを舞台にして、「バスにのらないひとたち」ほか、七つのふしぎな短篇が楽しめます。



キャロライン・
B・クーニー / 著
神戸万知 / 訳
〔講談社〕

『ヴァンパイアの帰還』

転校生デヴニーは平凡な女の子。新しい学校で美少女アリッサに出会ってから、彼女の美貌に嫉妬をおぼえていく。そんな時、デヴニーの前にヴァンパイアがあらわれ、取引を持ちかけるが…。

100冊以上ものティーン向けミステリー・ホラーを手がけてきたベテラン女流作家クーニーの作品です。

◆「Young Generationコーナー 展示スペース」には、一気に涼しくなれる本を約200冊ご用意して、10代のみなさんをお待ちしています。